

『在宅ケアを考える集い in 越後 2010』

少子高齢社会が進展し、対象者ニーズも社会政策も在宅志向が高まる中で、在宅ケアを担う様々な職種の連携・協働をめざした場を作るために、「新潟県在宅ケアを考える会」が発足し3年目になります。

今年は2年後の医療法・介護保険法の同時改定を前に、重要な課題である「病院から在宅へ」をテーマに議論を重ねたいと思いますので、多くの方から参加いただき、熱い有意義な議論ができますことを期待しています。

日 時 : 2010年7月4日(日) 10時～17時

会 場 : NSG学生プラザSTEP
新潟市中央区紫竹山6-3-5

参加費 : 1000円(当日徴収)

主 催 : 新潟県在宅ケアを考える会

プログラム

I. 挨拶 10:00～10:10

新潟県在宅ケアを考える会長
新潟県医師会長

黒岩卓夫さん
渡部 透さん

II. 特別講演 10:10～10:50

「多職種連携による在宅医療教育」

講師 新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座
井口清太郎さん

III. 基調講演 10:50～12:00

「東大キャンパスから在宅ケアへの新しい試み」

講師 東京大学 高齢社会総合研究機構 辻 哲夫さん

IV. 分科会 13:00～15:50

1. 在宅での住まい(住宅と暮らし)をめぐる問題点

コーディネーター: 小山 剛さん

(高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長)

1) 高齢者住宅の現状と課題

菱田 一さん(国土交通省住宅局総務課長)

2) 住まいを支える包括ケア体制の現状と課題

①夜間対応型訪問介護の立場から

長部照子さん(24時間ケアサービスステーション管理者)

②訪問看護ステーションの立場から

吉井靖子さん(訪問看護ステーション管理者)

③小規模多機能型居宅介護の立場から

村松 篤さん(小規模多機能型居宅介護管理者)

④3食365日の配食サービスの立場から

松本寿美子さん(配食サービスステーション管理者)

2. 在宅緩和ケア

コーディネーター：斎藤忠雄さん(斎藤内科クリニック)

1) いのち支えて～これまでの新潟での緩和医療

塚田芳久さん(新潟県緩和医療研究会代表、県立十日町病院院長)

2) いのち支えて～在宅での緩和ケア

畠山重秋さん(畠山医院院長)

3) 緩和ケア病棟

水戸将郎さん(新潟医療センター内科部長)

4) 緩和ケアチーム

片柳憲雄さん(新潟市民病院外科部長)

5) これからの新潟での緩和ケアのあり方

(対談) 塚田芳久さん、畠山重秋さん

(コメンテーター) 水戸将郎さん、片柳憲雄さん

3. 栄養管理摂食嚥下口腔ケア

コーディネーター：福田喜一さん(潟東クリニック)

永井正志さん(新潟県歯科医師会理事)

1) NSTの役割・医師の立場から

草間昭夫さん(草間医院 院長)

2) 嚥下咀嚼機能・病院歯科医の立場から

道見 登さん(新潟医療センター歯科部長)

3) 摂食嚥下障害認定看護師の立場から

笠原純子さん(南部郷総合病院看護師)

- 4) 栄養士の立場から
早田千紗さん（西新潟中央病院管理栄養士）
- 5) 嚥下リハビリについて
高橋 茂さん（西新潟中央病院言語聴覚士）
- 6) 経口摂取介護の立場から
吉田莉恵さん（特別養護老人ホーム虹の里介護福祉士）
- 7) 訪問歯科診療の取り組み
水野吉広さん（水野歯科クリニック院長）

4. 医療依存度の高い患者さんが在宅に帰る時

～援助者が患者・利用者のニーズを共有することの重要性～

「シームレスな支援」は専門職の連携にある

コーディネーター：坂詰明広さん（県医療ソーシャルワーカー協会副会長）
枝村和枝さん（魚沼市地域包括支援センター）

- 1) レスピレーターを必要とする患者さん
堀川 楊さん（堀川内科神経内科医院）
- 2) 透析・CAPD を行っている患者さん
飯野則昭さん（新潟大学腎膠原病内科学分野助教）
- 3) IVH、経腸栄養等栄養管理を必要とする患者さん
川合千尋さん（川合クリニック）
- 4) 病診連携・退院支援について
齋川克之さん（済生会新潟第二病院）
- 5) 理学療法士の立場から
片桐紳太郎さん（新潟県理学療法士会）
- 6) 居宅介護支援専門員の立場から
大平妙子さん（魚沼市社会福祉協議会）
- 7) 作業療法士の立場から
木暮拓美さん（萌気園訪問看護ステーション「ゆいまーる」）
- 8) 訪問看護の立場から
河野美代さん（新潟市民病院看護部在宅看護室）

V. 全体総括 16:00～16:30

上村伯人さん、各コーディネーター

VI. 閉会挨拶 16:30

黒岩卓夫さん